

## 生成 AI の利用に関する教員向けガイドライン

学生による生成 AI の適切な利用を促進するとともに、成績評価の公正さを高めるために、以下の点に留意して下さい。

### 1. 生成 AI 活用スキルの育成

- 学生の生成 AI のスキルの育成も行うという意識を持って教育を行って下さい。初年次教育、担当の授業等において、生成 AI の活用方法に関してアドバイスをするよう努めて下さい。

### 2. 成績評価の公正さの確保

- 単純に生成 AI で代筆可能なレポート課題を避けて下さい。必要に応じ、提出された成果物に対し、追加の質問、口頭試問を行って下さい。
  - 対応例：記述式試験にする、代筆が難しいレポート課題にする（例：○○○を自己の経験に基づいて書いて下さい）、特定の授業内での議論など、生成 AI 単独では回答が困難な文脈を課題に組み込む、課題を分割する、口頭試問を入れる。予定した演習課題やレポート課題に対し、生成系 AI がどのような出力を行うかを事前に確認しておく。
- レポート課題等を出題する場合は、成果物に、生成 AI の利用の有無、使用した生成 AI の種類、利用箇所と方法（どの部分にどのように利用したか）等を明記することを指示するよう努めて下さい。その際は、利用方法の類型を教員が例示するなどして、学生が明記しやすくする工夫を行って下さい。
  - 生成 AI の利用方法には、例えば、以下のような類型があります。
  - 「関連用語や背景知識の調査」、「外国語の情報の翻訳・要約」、「テーマの選定やアイデア出し」、「比較表の作成等の各種分析」、「構成（目次）案の作成」、「自身の書いた文章の校正・添削・推敲」、「プログラミングコードの生成・デバッグ」、「その他（具体的に：                   ）」

- レポート課題等において、生成 AI の利用自体を制限する場合は、その理由を含めて学生に説明して下さい。
- 生成 AI の出力結果を単純に流用した成果物、生成 AI の出力結果が実質的な「成果物の主体」となっている成果物、教員の指示を守っていない成果物、剽窃・盗用・著作権侵害がある成果物、ハルシネーションがある成果物に対する評価の考え方等について、事前に学生に説明するよう努めて下さい。
- 作成者のオリジナリティ、思考プロセス等に係る評価の割合を大きくするとともに、その旨を学生に説明して下さい。
- 「生成 AI が生成した文章か否か」を判定するツールを利用する場合は、その結果を過信しすぎないように留意して下さい。
- 成績評価等に当たっては、生成 AI の種類（有料版か無料版か）により、成果物に差が生じうることに留意して下さい。
- 必要に応じ、「大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて（周知）」（文部科学省、2023 年 7 月 13 日）を参考して下さい。